

舞鶴市内所在の文書について



本誌第三号の雑報にも記したように、京都府立総合資料館は「京都府の過去および現在をしり、将来の発展に役立てるために地域資料の所在を明らかにし、利用の便をはかる」ことを目的として、昭和四十一年「京都府資料目録」の編纂事業に着手し、まず同年八月末日までに目録作成に必要な諸調査を完了して本年四月にはB五判一〇〇〇頁にわたる内容の目録を発行する予定であったが、山城地方の調査が進行しないためこの事業は頓挫してしまっていることである。

以下「文書名(数量、帳簿一冊、一紙物一通)、時代、所蔵者住所、氏名、内容」の順序で記する。(真下八雄記)

○大俣区有文書(一〇冊、九二通)
元文五年—明治一六年(主として江戸時代後期)加佐郡大俣村(田辺領)の下記文書を大俣区が保管しているもの。免定、差紙(介抱、砂入高引)正税雑税皆済帳等租税関係、辛皮山絵図等。

○富室区有文書(九六冊、一五五通)
江戸時代初期—明治中期(主として江戸時代後期)。加佐郡富室村(田辺領)の下記文書を富室区が保管しているもの。慶長検地帳(写)、名寄帳、明治改租前後の土地関係、成詰帳、諸貢税の小前割帳等の租税関係、その他触書、検約規定書、宗門送り状、山論関係の庄屋文書。

○丸田区有文書(六一冊、一三通)
弘化四年—明治四四年(主として明治時代前中期)。加佐郡丸田村(田辺領)の下記文書を丸田区が保管しているもの。名寄帳、土目録、明治改租前後の土地関係。

○水間区有文書(一七冊、三一通)

○蒲江區有文書(一一四冊、二七通)
寛保—明治前期、大部分は化政期以後のもの。土地貢納関係外に幕末明治初期の軍役、学校、神社等関係記録がある。

○西神崎区有文書(六〇冊、二軸)
江戸時代初期—明治四三年(主として江戸時代後期)。加佐郡神崎村(田辺領)の下記文書を西神崎区が保管しているもの。慶長検地帳(写)、高帳、名寄帳、村絵図(軸物)等の庄屋文書、明治時代後期の統計報告綴。

○上福井区有文書(六冊、一一通)
元祿—明治前期。田辺藩上福井村文書である。今も残る建地峠の溜池関係録、柴草山入会、文化高帳などが主なものである。

○八田区有文書(一七六冊、二四通)
江戸時代中期—明治四五年(主として明治時代初期)。

○金村家文書(二八〇冊、六二〇通、一卷)
本 金村九二夫
延宝四年—明治三七年(主として江戸時代後期)。城下町田辺(舞鶴)の成立期よりの町人で酒造業者としての金村家(味噌屋)の大福帳、金銭出入帳、棚上帳等、商業経営上の諸帳簿、土地売買証文、田地帳等の土地集積、田地経営上の諸書類(延宝期の土地売買証文もある)を中心に、加えるに当家が城下町屈指の町人として酒屋肝煎、本町年寄(名主)、総年寄に就任中の御用日記をはじめとする公務上の諸記録を金村家が襲蔵しているもの。

○大波上区有文書(一五冊)

元文二年—大正一三年(主として明治時代)。加佐郡大波上村(田辺領)の下記文書を大波上区が保管しているもの。慶長検地帳(元文二年写)、高帳、明治改租前後の土地関係帳簿等の庄屋文書。

○田村家文書(一冊、四通)
滝ヶ字呂 田村 博
江戸時代。市原二箇村入会論争、宮津藩上宮津、田辺藩大俣との辛皮山論争等の記録を代々書き伝えてきた「歴世誌」は田辺、宮津の近世事情を知る上に参考になる。

○大波上区有文書(一五冊)

享保三年—明治二五年(主として江戸時代後期)。加佐郡田辺(舞鶴)町竹屋の下記文書を竹屋区が保管しているもの。役用日記、願書、触書、商売書上帳、宗門送り状等、竹屋町年寄(名主)文書。

○神内家文書(六〇六冊、一〇通)
長谷 神内彦弥寿
江戸時代初期—明治七年(主として江戸時代後期)。加佐郡長谷村(田辺領)の下記文書を同村庄屋であった神内家が襲蔵しているもの。慶長、延宝検地帳(写)、高帳等の土地関係、宝暦期以降の年貢米名寄下通、年貢納通、諸貢租の小前割帳等租税関係、その他銀札方帳、宗門帳等の庄屋文書。

○上野(吉)家文書(六冊)

西方寺 上野吉藏
宝暦—明治。田辺藩西方寺村方文書である。覚帳、分限帳、明治二七年の節儉法等である。

○真下家文書(一三三冊)
久田美 真下幸成
嘉永五年—明治一一年(主として明治時代前期)。加佐郡久田美村(田辺領)の下記文書を同村庄屋であった真下家が襲蔵しているもの。明治改租前後の土地関係書類、諸貢租の小前割帳、御用達書等の庄屋文書。

○上野(弥)家文書(二八冊)

西方寺 上野弥一郎
江戸後期。田辺藩村方文書である。貢納、入木、川除、万八講、検見、惣遣、極難波救恤

代前期中期)。加佐郡八田村(田辺領)の下記文書を八田区が保管しているもの。慶長検地帳(江戸中期の写)、土目録、明治改租前後の土地関係、成詰帳、諸貢の小前割帳等の租税関係の庄屋、役場文書。

○丸田区有文書(六一冊、一三通)

○水間区有文書(一七冊、三一通)

○蒲江區有文書(一一四冊、二七通)

○西神崎区有文書(六〇冊、二軸)
江戸時代初期—明治四三年(主として江戸時代後期)。加佐郡神崎村(田辺領)の下記文書を西神崎区が保管しているもの。慶長検地帳(写)、高帳、名寄帳、村絵図(軸物)等の庄屋文書、明治時代後期の統計報告綴。

○金村家文書(二八〇冊、六二〇通、一卷)
本 金村九二夫
延宝四年—明治三七年(主として江戸時代後期)。城下町田辺(舞鶴)の成立期よりの町人で酒造業者としての金村家(味噌屋)の大福帳、金銭出入帳、棚上帳等、商業経営上の諸帳簿、土地売買証文、田地帳等の土地集積、田地経営上の諸書類(延宝期の土地売買証文もある)を中心に、加えるに当家が城下町屈指の町人として酒屋肝煎、本町年寄(名主)、総年寄に就任中の御用日記をはじめとする公務上の諸記録を金村家が襲蔵しているもの。

○近藤家文書(三〇冊、一〇通)
竹屋 近藤久兵衛
文政一一年—明治三九年(主として明治時代前期)。酒造、金融業者としての田辺(舞鶴)町人近藤家(酒屋)の下記文書を同家が襲蔵しているもの。手船勘定帳、欄役納寛、大福帳等の海運、商業経営関係史料。

○吉田家文書(三冊、五八通)

魚屋 吉田太一

明和元年—明治四年(主として江戸時代後期)長崎御用儀物買入商としての田辺(舞鶴)町人吉田家(大阪屋)の下記文書を同家が襲蔵しているもの。御用記録、仕切証、金銭出入の覚、永代記録等。

○堤家文書(一七冊、一一四通)

魚屋 堤 寛夫

寛政元年—文久元年。田辺藩士(目附、城代)としての堤氏の下記文書を同家が襲蔵しているもの。御目附年中行事、御達書、村々定成詰等の役職上の手控、堤氏系譜、書簡、風聞書。

○龜井(弥)家文書(九冊、三六通)

野村寺 龜井弥一

寛文—明治四年。田辺藩野村寺村の村方文書である。隣村城屋村、久田美村との柴草入会争論、氏神祭についての高野由里村との争論享保一八年、宝暦六年一揆に関する記録等を含んでいる。

○嶽家文書(二通) 京田 嶽藤兵衛

江戸時代。下記文書を上記者が襲蔵している。「丹後加佐郡城主記録」(天正一〇年書記の写)、「丹後国藤孝三賜礼事」(維持前氏政資

料蕙集目録所収)

○龜井(武)家文書(六九冊、二九四通)

久田美 真下八雄

寛文八年—天保三年(主として江戸時代中期)加佐郡倉谷村(田辺領)の下記文書を同村庄屋であった龜井武左衛門家より現所蔵者が引継いだもの。田畑高反別帳等の土地関係、免定、差紙(介抱被下米)等租税関係、その他村掟、頼母子、山論等々の庄屋文書。

○西口家文書(約三〇〇通)

福末 西口実

江戸後期—明治初期。福末善照寺のふすまのはりかえの際、その下貼りをはぎとったもの。年貢帳、諸割勘定、宗門、村送り等帳簿をばらしたものの。復元できないが田辺藩内未解放部落について断片的ながら、多くのことを知ることが出来る。

○井上家文書(二五〇冊、一七〇通)

余部上 井上七郎

元禄—明治。田辺藩余部上村の江戸時代の文書を中心に明治期のものもある。藩政時代の文書は貢納、村方経済のものが大部分でそれ以外のものは極めて少い。年次単位にそれらの文書が比較的まとまって残っている。明治期のは初期の戸籍、地租改正関係のもの

から中後期この土地が軍港になっていく頃までの資料が残されている。先代與本氏は音韻学の研究に志し、録音器具等も工夫考案して多くの参考図書と共に残されている。倉谷村(舞鶴市字倉谷)の慶長検地帳もある。

○恒川家文書(九冊)

丸糸八島 恒川友則

江戸時代末期—明治二四年。田辺藩士(宿衛)としての恒川氏の下記文書を同家が襲蔵しているもの。御系譜添記(藩主)、分限帳、御家中指物之覚、領分、城の略図帳、懐中手抄等の手扣帳簿、恒川氏系譜。

○上羽家文書(五三一冊、三三八通)

行永幸野町 上羽義夫

貞享—明治初年。田辺藩行永村の村方文書である。数量も多いが内容も多岐、政治経済、社会、宗教、教育各般にわたり田辺藩村方の状況を知らる上に貴重な史料である。特に貢納関係の帳簿が多い。

○荒木家文書(三三冊、八〇通)

大波上 荒木 弘

元禄—明治初期。田辺藩大波村関係の大部分で他に元禄八年琵琶湖敦賀間の水道開さく陳情書、並びに荒木家が田口神社赤宜をしていた時代の文書が交っている。村方文書は通例

の庄屋文書が大半を占めているがその中に享保、宝暦の田辺藩百姓一揆関係、天明・天保の飢饉時代の村方の様相を知る資料がある。

○森本家文書(六巻、七冊)

吉坂 森本太郎大夫

享保二一年—明和八年(主として江戸時代後期)。岩室稻荷神社の由来、同社家の本末両家論争関係および福くじ、頼母子、土地売買等当神社経済関係の史料と明治以降の同神社末社の神社算格内申、財産登録関係書類とを当社家森本氏が襲蔵しているもの。

○阿良須神社文書(一七通)

小倉 阿良須神社

観心—寛正。中世志楽庄春日部落の(一宮)講田、夏田等、その他祝職、神田散用等この神社に関する文書である。

○西浦家文書(一〇四通)

森 梅垣 忠

承久—承応。大日本史料に桂林寺(舞鶴市)文書として一部が紹介されている。大部分が中世文書である。もと梅垣氏は舞鶴市字泉源寺にあり奈良西大寺の莊園志楽庄春日部の政所であった西浦の家系である。この文書もこの莊園に関する名田、年貢受取り等文書が大部分で、異色なものとしては粟屋状と称す

るものが一通ある。江戸時代初期に属するものは六通含まれている。

■例会だより■

四月二日 西舞鶴高校

「地頭の五輪塔について」(伊田氏、杉本氏)、「田辺藩の百姓一揆」(中嶋氏)

伊田半治氏、杉本嘉美氏入会される。

七月二十四日 西図書館

「市文化財保護委の与保呂谷調査について」(井上氏) 舞鶴市史編纂について意見交換。会誌第六号原稿依頼。

九月三十日

本年度西舞鶴地方史研究者発表大会における当会の研究発表者を頼戸美秋氏と決定。史料についての情報交換。



■雑報■

われわれが多年念願していた市内上安久、安久仁介氏襲蔵文書の調査を、同家の御好意によって、去る五月十五日より始め、日教五日間、延人数十四人(中嶋氏、瀬戸氏、岩田氏、川端氏、真下が参加)を費して整理と目録作成を終了した。

安久家は中世当地方の土豪、安久左京進の末裔といわれ、江戸時代には度々大庄屋、庄屋に就任している由緒ある家柄であるが、所蔵されていた文書類は中世史料は皆無で、近世天和三年から明治、大正時代までの組内勘定帳をはじめとする大庄屋文書、年貢米納通、名寄帳等の上安久村庄屋文書および同家の大福帳、手作種当帳等の家業経営史料が主たるもので、その点数は帳簿類一六六五冊、一紙物五五〇通の膨大な数量に達し、将来の当地方史研究に欠くことの出来ない貴重な史料となるであろう。

舞鶴市が市制三〇周年(昭和四十八年)の